

特定非営利活動法人屋上開発研究会（7月1日発信）

H26通常総会・情報交流会レポート

特定非営利活動法人屋上開発研究会の平成26年度通常総会・情報交流会がこのほど平河町のルポール麹町で開かれた。

研究会は創設25年目、NPOになってから11年を数えて、主要事業はおおむね順調に推移した。平成25年度は、会員サービスに力を入れて、表参道の町田アカデミーの教室を借りての「青山サロン」、日比谷図書文化館の小ホールでの「日比谷サロン」、屋上開発研究会の事務所を開放しての「サロン136」など、8回にわたって、会場とスタイルを変えて様々な分野の講師をお呼びし、会員との交流を図った。

第19回のスカイフロントフォーラムでは、東京農業大学の近藤三雄先生をメイン講師に、「都市緑化100年の計」をテーマにお話しいただき、100名を超える参加者を集めることができた。近藤三雄東京農業大学教授は『温故知新・先人の知恵と技術を紡ぎ明日の都市緑化を拓く』、戸田芳樹株式会社戸田芳樹風景計画代表取締役は『みどりの未来都市への構築』、高橋一輔アゴラ造園株式会社代表取締役会長は『奥深き造園技術のとばくち』の3人に加えて、屋上緑化に大変興味があるという昨年度のみス日本・鈴木さんが飛び入り参加で、会場は大いに盛り上がった。

壁面緑化分科会を中心に2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて、何か提案できないかという機運が高まり、マラソンコースの環境改善、景観美化に壁面緑化技術を役立ててもらふ提案の検討を進めてきた。平成26年度には、他の緑化関連団体とも協力して、国や都に対して提案活動を活発化させることとしている。

また平成26年度には、世界屋上緑化会議名古屋大会の開催に全面協力する。23の国と地域から約50人の参加者が集まり、国内の緑化・環境関連事業者が約100人から150人参加することを計画しているもので、国交省や名古屋市の後援を受けながら、事業を推進したいとしている。

総会では、平成25年度の決算報告、及び平成26年度の活動方針が全会一致で承認された。

引き続き行われた情報交流会は、昨年同様、資格取得した協力会員にも門戸が開放され、第1部の特別講演では、内閣総理大臣補佐官和泉洋人氏が「日本の成長戦略」～国家戦略特区等の政策で加速する持続可能な都市の創造～と題して、安倍内閣が推し進めている成長戦略の骨子をわかりやすく解説した。会場には会員企業のトップも多く参加しており、緊張感のある40分だった。

第2部の交流会では、立石真理事長、福沢武会長の挨拶では、今年創立25年目を迎える同会のさらなる活動の充実を呼びかけた。引き続き、国土交通省住宅局市街地建築課の杉藤崇課長、同都市局の公園緑地・景観課、舟引敏明課長が来賓として祝辞を述べられた。屋上開発研究会の副会長、株式会社竹中工務店の宮下正裕社長の発声に合わせて乾杯した後、会場の100名を超える参加者がにぎやかに歓談した。

その後屋上開発研究会の理事、株式会社日比谷アメニス的小林定夫社長の一本締めで散会となった。

平成26年度通常総会



情報交流会第1部 和泉洋人内閣総理大臣補佐官の特別講演



情報交流会第2部 懇親会

例年のように懇親会には豪華な顔ぶれがそろいました。



屋上開発研究会 立石理事長



屋上開発研究会 福澤会長



国土交通省住宅局住宅局杉藤課長



国土交通省都市局舟引課長